

イネの害虫利用術

五味 剣二

農学部助教 博士 (学術)

専門分野 植物病理学



「夏ウンカは肥やしになる」という諺が存在する。夏ウンカとは、イネを吸汁加害するセジロウンカ (図1) のことを指す。セジロウンカは稲作における主要な害虫の一種で、「良い関係」とは言えないと考えられている。それなのに何故「肥やしになる」というような、「良い虫扱い (益虫)」と解釈できる表現を諺に残しているのだろうか。当研究室では、その答えの一端と思われる現象を発見した。それは、セジロウンカの加害によって、イネが病気に対して強くなるという現象 (間接誘導抵抗性) である (図2)。本研究ではセジロウンカの加害がイネにどのような変化を与え、なぜ病害抵抗性が強化されるかを、遺伝子組み換えイネを作出するなどして遺伝子レベルで詳細に解析し、そのような知見を基に、耐病性を強化したイネの作出を試みている。



図1 セジロウンカ

左: イネを加害するセジロウンカ,
右: 加害後にイネに残るトンネル状
構造物(矢印)

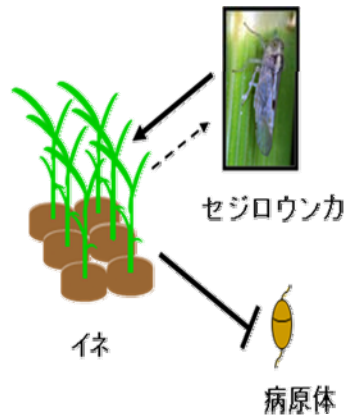


図2 間接誘導抵抗性